

令和3・4年度 長崎県教育委員会 諫早市教育委員会指定
ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業

研究紀要



令和4年11月25日（金）

諫早市立喜々津中学校

はじめに

私どもが進めたいこと、それは「地域も巻き込んで、ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践プログラムを作ろう」ということです。

実践の背景や、実践に込めている思い・大切にしたいことは多々ございますが、概して次のような諸点が挙げられます。

- ◆ 諫早は、長崎県は、日本は、今どこに行こうとしているのか。その答えは分かり難い。だが、生徒の未来を明るく灯したい。
- ◆ 学習指導要領においても、ふるさについて学ぶことを通して、自身の将来を見つめ、社会における役目を考えながら自分探しをするということなどが求められている。
- ◆ 地元の未来を切り拓こうとしている若い世代の事業家・社会人の面々は、ふるさとの宝である。そのような人々に、生徒を出会わせるのは価値が高い。
- ◆ 生徒に将来、笑みに満ちた幸せな社会生活を歩んでほしい、そのためにふるさと教育を進める。ふるさとの魅力に触れ、自他のふるさとを認め、尊重する姿勢を持たせたい。

例えば、報道で今夏、長崎県が人口減の見込みにあること、今後は北部九州3県の連携を強化し、点でなく面の魅力の伸長を図るべきであることが取り上げられるなどしました。このような課題に、中学生が、若い世代が真剣に向き合う機会となる、それが本指定研究の大きな意義の一つだとも、本校では認識しております。

なお、本校の取組だけをもって「どうです！すごいでしょ！」と言えるものにはもちろん到底及びません。本校のささやかながらの取組は、同時期にキャリア教育・ふるさと学習関係の指定を受けている関係各中学校の魅力的な取組と相まって、やっと一筋の光となるであろうものです。加えまして、「完成された結果を示す」には至っておりませず、実践の経過報告として「未来を拓く、将来に広がるプログラム開発」を進めている途上にあります。そのため、生徒と同様に学校自体も、時代の変化に照らしつつ歩みを進める所存でありますことを、どうぞ御容赦ください。

諫早市立喜々津中学校 校長 中谷 俊光

目次

はじめに

目次

1	研究の概要	
1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究の仮説	2
4	研究の柱・視点	2
5	研究組織	2
6	研究の構想	3
2	研究の実際	
1	各学年の研究・取組について	
	(1) 第1学年	4～5
	(2) 第2学年	6～7
	(3) 第3学年	8～9
2	授業実践	
	・第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案	10～12
	・第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案	13～15
	・第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案	16～18
3	成果と課題	19～20

研究同人

1 研究の概要

1 研究主題

「ふるさとと繋がり、自分の未来を主体的に創造する生徒を育てる」
～ふるさとを担う実践力を目指して～

2 研究主題設定の理由

(1) 本校の概要

本校のある多良見町は、諫早市の西部に位置し、西の端を長与町及び長崎市と接している。北には風光明媚な大村湾を抱き、また、遠く北東方向に多良山系を望み、町名はそのことに由来している。校区が長崎市と諫早市街を結ぶ国道34号線の間位置すること、高速道路のインターチェンジもあることなど、その地理的便利さから各種企業が進出し、長崎・諫早のベッドタウンとして定着している。そのような中で、さまざまな価値観を持つ地域住民構成となり、新しい連携を求め活動が活発になってきている。教育に対する関心が高く、学校や教師への積極的な言葉かけや期待も寄せられている。

本校は昭和56年（1981年）以降、急激な生徒増に伴い、昭和61年（1986年）には校舎が新築された。その後も、生徒数は増え続け、平成4年度のピーク時には、21学級802名となった。以後は徐々に減少してきており、本年度（令和4年度）は11学級（うち2学級は特別支援学級）307名である。今後、宅地開発など人口増加の要素もあるが、昨今の生徒数は横ばいである。

(2) 生徒の様子

本校の生徒は、全般的に明るく素直な性格で、物事にまじめに取り組む。部活動には、8割の生徒が入部して、熱心に取り組む、文化・スポーツの各種大会において優秀な成績を残している。なお、職場体験、職業講話、高校説明会などで地域の方から学ぶ場面はこれまでもあったが、積極的な課題解決の場面は少なかったと感じられた。

(3) 主題設定の理由

「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」として、2年間の研究指定を受けた。研究指定のための研究ではなく、今後永続的な本校のキャリア教育の一環として成立させることを目的の一つとする。本事業の目的が、「ふるさとの活性化」と「ふるさとを担う実践力」の育成にあることから、生活の場としてのふるさとが、将来を担う生徒たちにとって魅力的でわくわくする生活の場となるように、生徒自らがその可能性を模索していく学習であることを柱とした。

そこで、ふるさとの事業者や先輩方との協働学習を出発点として、自分の将来と「ふるさとの魅力」や「身近な人の生き方・働き方」とを重ね合わせて考えさせつつ、ふるさとの課題解決のための探求的な学習に取り組む。さらに、自立的・継続的なキャリア教育を目指し、学習のプログラム化を進めることで、ふるさとを担う生徒を育むことができるのではないかと考え本主題を設定した。

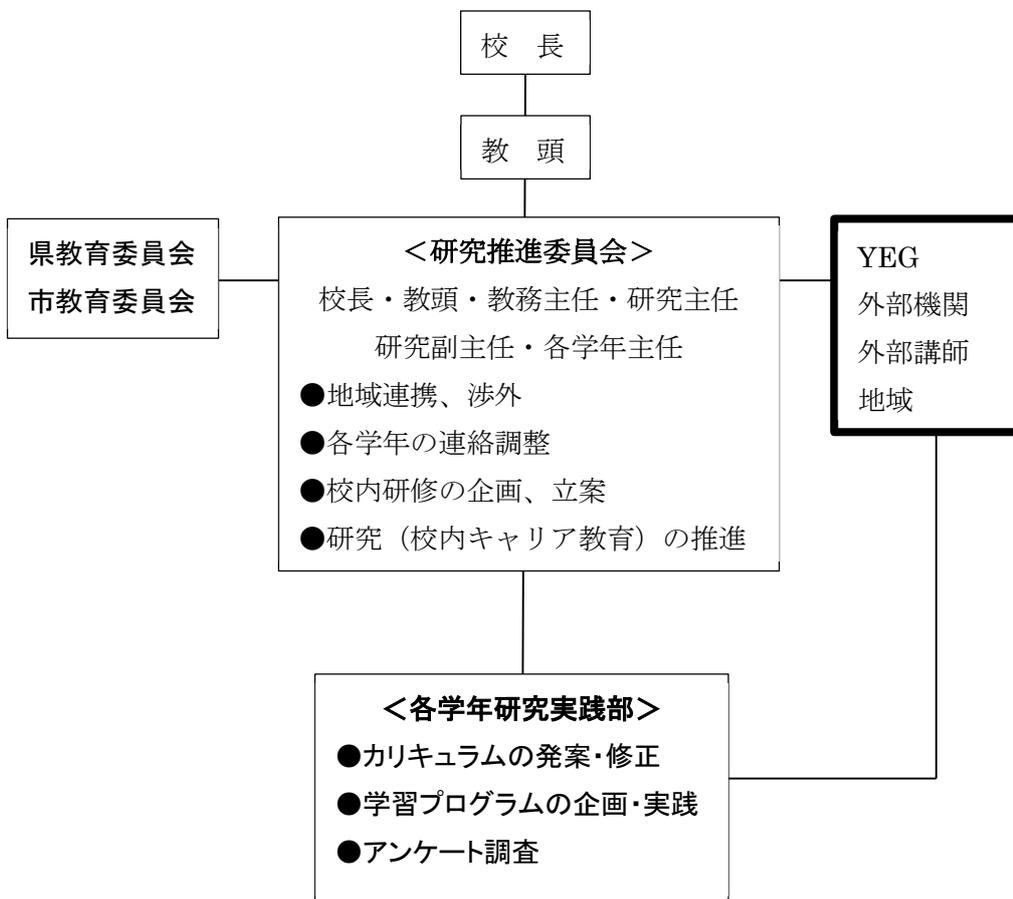
3 研究の仮説

ふるさとの企業人や先輩方と協働し、ふるさとの魅力を知り、ふるさとの活性化や課題解決のための実践学習や体験活動を設定することで、個々のライフプランニング能力を高め、将来、ふるさとを担う人材の育成に繋げることができるであろう。

4 研究の柱・視点

- (1) 職業体験をとおして、自分の生き方や働き方を考える。
- (2) 将来にベクトルを伸ばし、自分の生き方を具体的かつ主体的に模索する。
- (3) 郷土愛や地域貢献を自分の生き方に重ねて考え発信する。

5 研究組織



6 研究の構想

学年	活動の柱	活動内容	備考
1年	「新化」・点 将来の生き方、働き方を考える起点		
	働く意味や社会の仕組みを知る	諫早商工会議所青年部（YEG）の協力を得て、商品開発（食品等）や店舗宣伝など、より深く実質的な職業体験を通して、働く意義や、社会の仕組みを学習する。さらには、起業家的視点を意識づけ、その態度を育む。学習した成果を発表（プレゼン）する。	職業体験 職業講話 商品開発 起業家視点 プレゼン
2年	「進化」・線 将来にベクトルを伸ばし、生き方を模索する		
	自分の生き方について考える	喜々津中学校校区を中心とした地域の先輩方からの職業講話や、その方たちとの協働学習を通して、自身の生き方を見つめ、考え、意見交換する。 3年次に向けて地域の課題や魅力を発見する。	マンダラチャート 職業講話 地域交流 お金の学習 プレゼン
3年	「深化」・面 郷土愛や地域貢献を自分の生き方に重ねて考え発信		
	諫早副都心的まちづくりの創出	2年生の学習をさらに深め、これからのふるさと多良見地区を活性化させ、将来自分たちが住みたくなる魅力あふれたまちづくりのアイデアを練り、地域の方々に発信する。そして、これらを通して学校と地域が連携したまちづくりのモデルケースを提案する。	マンダラチャート 職業講話 地域発信 地域交流 プレゼン

ライフプランニング能力を高め、ふるさとを担う実践力を育てる。

2 研究の実際

1 各学年の研究・取組について（令和3・4年度の実際）

(1) 第1学年 「新化」・点 将来の生き方、働き方を考える起点

①取組の内容

第1学年では、【「新化」・点 将来の生き方、働き方を考える起点】という位置づけの下、諫早商工会議所青年部（YEG）教育委員会の御協力により「職業体験」を実施した。ここでは、体験とおして働く意義や職業観を育み、さらには起業家的視点で課題解決をすることで、その素養を育むことを目的とした。令和4年度の協力事業所と学習課題は以下の通りである。

	事業所名	職種	学習課題
1	八江農芸	園芸	諫早を中心に、長崎で作られている野菜をPRする企画と、校内の畑での野菜作りを通して、農業についての理解と興味を深める。
2	スマイフルホーム	建築	4つのコース別に家を設計し、選ばれた1つのアイデアを全体で深め、現実的な形に完成させることで、家づくりの楽しさを学ぶ。
3	リカルネ	飲食	グループ別にパスタメニューを考え調理し、併せてメニューのPR動画を作成することを通して、経営者視点の考え方を学ぶ。
4	大山（若竹丸）	飲食	調理や接客の体験に加え店内で流す動画を製作し、飲食業でもICT機器を活用するなど仕事には様々な側面があることを学ぶ。

職業体験をする上で、経営者目線に立つことを重視した。

1事所に4グループ（各6名程度）が入り、講師のアドバイスを受けながら生徒自身で課題を解決していく。最後は、生徒同士が学習の成果を発表しあって更に学びを深めていく。

②成果

生徒にとっては、現場のプロから学ぶことは新鮮であり、起業家的視点による課題解決はたいへん興味深く、消費者としてぼんやりと見過ごしていたことが明瞭になる。この体験を通して自分の将来に対する興味・関心・可能性などを考えるきっかけとなっている。特に課題解決におけるコミュニケーション力やICT機器を使った情報収集力を高めることができているのは、他教科や日常生活においても有意義である。

③課題

この実践において、苦慮したのは地域の方との協働についてである。例えば、講師のスケジュールを考慮した時間割を組むこと、都合で講師が授業に入れないうきの担当教師の役割の確保、校外活動の移動手段と時間の確保、予算がないため講師の御厚意に多くを頼っていることなどである。講師の方は、自身の会社の事業が地域に貢献することの喜びや地域を活性化する将来の卵が育つ期待を持ってくださっている。そのような思い、地域愛が生徒に伝わるからこそ、ふるさとを担う原動力を育てるのではないかと感じられる。



④ 1年生の活動風景

I 講師打合せ資料

令和4年度 1年生「キャリア教育」実施計画（全年）
 ※6月23日（水）打合せ実施後経過経過表
 鎌倉市立西が浜中学校 第1学年

- テーマ 「新入」 将来の生き方、生き方を考える機会としよう。
- 目的 ①職業体験を通して、働くことの意義や就業観を学ぶ。
②講師の方の生き方を学び、自分の生き方と向き、将来のビジョンを創出する。
- 実施内容 グループごとの職業体験を実施し、それらの成果について学習発表会をする。
- 協力機関と協力者一覧

氏 名	職 名	住 所	本校担当職員
八江忠雄	同業 八江建設		松井はる香
スマイルホーム	実業 実業三洋		片桐平哉
リカルネ	実業 東口製一		山下裕里
松竹丸	実業 山口松大		戸原心希

協力機関：鎌倉市立西が浜教育委員会 委員長：田川 良雄（GJ FAF） 特別顧問
 高橋さん（ダブルタタ生体）が参加協力

- 活動計画（抜粋）

月	内 容	母数
5	進路ガイダンス	
6	23(水) 第1回打合せ	
7	11(水) 職業講話（5・6限時間） <講師様より活動内容紹介>	授業時間2 アンケート1
8	15(金) グループ別のアンケート	
9	活動準備	
9	担当者グループ生徒との打合せ（2時間） 職業体験学習実施	時間：4 人数：2
10	職業体験学習実施	人数：2 人数：1
11	25(金) 発表発表会（学習発表会公開）	人数：1
12	学習のまとめ	
合計母数		23

※各機関 オリエンテーション（1）、校外活動（8）、合同コン（4）
 平均学習（7）、入塾学習（3）、就職調べ（4） 127

- その他

職員と講師が事前に打合せを実施し、ねらいを明確化し、計画的な時間運用を図った。

II 職業体験（現地体験・実習）



各事業所との打合せに基づき、現地体験、実習（耕作）等、様々な形態で実施。

III 活動場面



(2) 第2学年 「進化」・線 将来にベクトルを伸ばし、生き方を模索する

①取組

第2学年では、【「進化」・線 将来にベクトルを伸ばし、生き方を模索する】という位置づけの下、「豊かな生き方」をテーマとして、講師による複数回の授業を組み込み、「ライフプラン」を立てる活動に取り組んだ。

すなわち、「なりたい自分」を考えることを通して、「豊かな生き方を考える」学習、そして、第3学年での「自分たちが住みたくなるまち、住みたい喜々津」について考えるきっかけとなる学習を進めさせることとした。このことは、3か年のふるさと学習・キャリア教育をプログラム化しようとする研究実践をする上で、学年間の系統性を考慮してのことである。このことにより生徒は、1年生での学びを踏まえ、2年生テーマ「豊かな生き方」に照らしつつ「自分の生き方」「なりたい自分」を模索する学びを経て、3年生で行う「住みたくなるまちづくり」への提言を通して、学びを深めることができるであろう。

また、生徒一人一人の「ライフプラン」の作成には、段階を踏んで取り組むことや多様な経験を持つゲストティーチャーによる支援が不可欠と考えた。そこで、ライフプランコンサルタントに協力を依頼し、幅広い職種の皆さんに協力いただける運びとした。

以上の取組は、多様な価値観や生き方に触れ、生徒自身の生き方や考え方を多角的・多面的に学び、その過程で、自身を深く見つめて「なりたい自分」を目指す手立てを模索し、郷土を大切に思う心情が高まることをねらいとするものである。そこで、取組の要として、日常生活に目標を見いだすこと、その目標を達成するためには具現化や実践が肝要であるということ意識することができるよう努めているところである。協力していただいた関係者は以下の通りである。

企業名	職種	企業名	職種
ジブラルタ生命 保険株式会社	ライフプラン コンサルタント	有限会社 山崎マーク	広報部 元新聞記者
社会福祉法人 ながよ光彩会	福祉施設理事長	長崎ヴェルカ 株式会社	育成事業責任者
株式会社 カリオモンズコーヒー	コーヒーショップ 代表	株式会社 笑心一	代表取締役
nocchi farm	代表	株式会社 CHOHA I	俳優



②成果

学習の導入時のライフプラン作成では、将来についてしっかり考えている生徒もいれば、あまり関心がない生徒もいるという実態が見られた。また、より良く生きることに意欲や関心がない生徒も数人おり気になった。ところが、一連の学習、講話を経ての生徒の感想では、前向きな記述が増えた。多様なゲストティーチャーが授業に入って生徒とともに考えたり、アドバイスをしてくださったりするなどの活動は、「生き方」を深く考えるうえで、有効かつ効率的な手立てであった。

③課題

この学習活動は、生徒がどれくらい自分自身に真摯に向き合えるかが鍵となるため、ライフプランコンサルタントと教員による計画的な授業構想と状況に応じた修正・改善が必要となる。連絡・調整を密に行ったが、それを生み出す時間調整が課題となった。なお、生きる価値や意義という抽象的な言葉を自分のこととして捉えることができるよう、「ふるさとで働くこと」や「一つのことをやり続けること」などの価値や意義について、生徒が気づき、生き方について深く考えていくような学習を仕組み、「なりたい自分」を考えるという最終目標を達成するための、「段階的に理解を深めることができる単元構想の工夫」も課題となると考える。

(3) 第3学年 「深化」・面 郷土愛や地域貢献を自分の生き方に重ねて考え発信

①これまでの取組

本学年はコロナ禍が本格化した年に入学した学年である。1年次では予定していた宿泊学習や長崎平和フィールドワークなどの校外学習を中止せざるを得なくなる中、諫早商工会議所青年部（YEG）教育委員会の方と協働し、「職業体験」をキャリア学習の一環として行うことができた。ここでは、事業所から依頼された仕事を請け負う形での活動を行った。具体的にはカラオケハウスの「新メニューの開発」「宣伝ポスターの作成」「ラジオ番組の構成」の3種類の仕事内容であり、経営者目線での活動とした。どの内容もプレゼンテーションの際に生徒は「なぜそのようにしたのか」理由を述べる必要があるとされ、課題を解決しようと楽しみながら学習に取り組んだ。

2年次では、「諫早を盛り上げよう」というテーマで取り組んだ。地元多良見町で起業し、活躍されている方々から職業講話をしていただき、大いに刺激を受けたのち、生徒たちの自由な発想と視点で諫早市の現状を調べ、諫早の活性化案を発表した。

②本年度の取組

3年次では、「住みたくなるまちづくりを考え、地域に提言しよう」というテーマで学習を進めている。提言するためには、自ら行動を起こしてまちづくりに必要なさまざまな情報を集め、課題意識をもつことができるような学習が必要である。そのために、1年次の職業体験のときからYEGの方々と協働的に学習を重ねてきた。2年次ではchromebookを使った調べ学習が中心だったが、今年度はもっと焦点を絞って目に見える活動を仕組むことにした。本単元のはじめには、YEGの方々と「住みたくなる街とは」というテーマのもと、グループでマンダラチャートを行った。グループで行うことで他の考えを尊重し、協働して行うことの大切さを学び、次の時間には個人作業として続きを行い、更に思考を深めた。活動に際しては実践的な組織にするために、市役所の組織になぞらえて「多良見町喜々津中支所」を立ち上げ、6つの課「まちづくり課」「健康・福祉課」「くらし・防災課」「教育・文化課」「観光・広報課」「産業課」に分かれて活動させている。



9月末に西九州新幹線「かもめ」開通を祝したイベントが市内中央商店街で実施された。現地でも地域の方々にアンケートを取って意見を聞いたり、商工会議所の運営のスタッフの手伝いをしたりして職業体験を行った。地域の幅広い年齢層の方に意見をいただき、貴重な体験となった。



③今後について

今後は収集した情報を整理・分析し、各グループによるプレゼンテーションを行う。その際まずはクラスの仲間に地域の活性化や魅力を伝えることで提言する力を育成したい。仲間の発表を聞き、情報を共有してふるさと多良見のためにできることは何かを主体的に考え、将来的なキャリアの育成に関連付けながら学習を進めていく。これら一連の学習は、地域の方々や関係する人々の地元多良見町への思いに触れ、地域の良さや課題に気付き、課題の解決方法を考えるとともに、自分たちが地域とどのように関わっていくのか、企画・提言し、自らの伸長を図ることに適していると考えられる。

④ 3年生の活動風景

I ホームページ掲載資料

3年 総合的な学習の時間(キャリア学習)
 <活動の紹介>
 観光・広域課 まちづくり課 産業課 暮らし・防災課 健康・福祉課
 教育・文化課 の6つの課に分かれて活動しています。

今日は、健康・福祉課の活動を紹介します。

商品に楽しんでもらおうと、魚釣りゲームを
 作りしました。
 魚を入れる仕掛けを
 作っているようす →



↑
 本泊二一保育園に贈ったところ、
 大人気!



↑
 魚釣りゲームに参加してくれた
 幼児に渡すお土産の釣り針
 を作っています。



西九州新幹線開通フェスティバルでも
 大人気でした。

各課の活動をホームページに随時掲載し、生徒自身の意欲向上と情報発信のツールとして活用した。

III 活動場面



II 地域行事参加

(西九州新幹線開通フェスティバル)



諫早商工会議所青年部との連携により、アンケート調査やスタッフ補助の役割を担い、行事に参加(任意参加)

体験を通して、地域の魅力を再認識し、情報収集でもよい機会となった。12月開催行事にも参加予定。



2 授業実践

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和4年11月25日（金）公開授業1

場 所 C棟各割当て教室

指導学級 1年1・2・3組 各事業所別グループ

指 導 者 田尻、片岡、山下、福井 原 各教諭

1 単元名 キャリア学習 ～職業をプチ体験し、課題を解決しよう～

2 単元について

(1) 単元観

1年生のテーマは、「新化」である。「新化」には「学びの始まり」の意味合いを込めており、本単元での学びを「将来の働き方を考える起点」、自己の生き方を考えるきっかけの一つとすることをねらいとする。単元の構成としては、生徒が地域の事業所（経営者）と直接出会い、協働する活動を柱とする。これにより、起業家の視点を感じ、地域の将来に目を向けるとともに、単元の学習過程を通して、主体的に課題を解決する態度を育むことができる単元構成とした。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、素直で落ち着いた態度で学びに参加することができる。仲間と協力して課題解決をする意欲も持っている。これまでの学校生活における学校行事や係活動での活動の様子から、課題解決におけるコミュニケーションの取り方や、解決方法の工夫の仕方などに、経験値の少なさを感じる場面が多々あった。また、自己の将来のはっきりとした展望を持っている生徒は少ない。

(3) 指導観

指導にあたっては、職業体験学習において、事業者視点での商品開発や様々な企画の課題解決に取り組み、その成果や学びの実際をプレゼンテーションする場を設定する。そこで本年度は、講師として、リカルネ（飲食）、若竹丸（飲食）、八江農芸（農業）、スマイフルホーム（建築）の事業主を招いた。事業者の生き方や仕事に対する情熱に、自己の将来の生き方や進路に重ねて考えることで、自身のライフプランの実現に向けて一人一人が希望をもつとともに、この活動を通して、主体的に課題解決することの喜びを知り、さらには自己実現に向けた態度と意欲を育てる。

3 単元目標

- 職業体験を通して、働くことの意義や職業に対する理解を深め、自己の進路や生き方と関連付けて考えることができる。
- 級友と協力して与えられた課題を積極的に解決する態度と力を身につける。また、これらを通して学んだことをまとめ、自己の考えを発表することができる。

4 単元の評価規準

知 知識・技能	思 思考・判断・表現	主 主体的に学習に取り組む態度
<p>①与えられた課題を、正確に理解し、課題解決のための方法や手段を把握している。</p> <p>②職業体験学習が、自分の生き方を考え、決定していくことに大きく役立つことを理解している。</p>	<p>①課題解決に向けて、継続して観察、調査を行い、解決方法を見つけ、自己の考えを適切な方法で表現している。</p> <p>②自己の考えを工夫して発信している。</p>	<p>①自分とは異なる意見を取り入れながら、仲間と協力して、課題解決のために取り組むことができる。</p> <p>②自分の生き方に関心を持ち、積極的に考えようとしている。</p>

5 単元指導計画（全25時間）

月	学習内容	時数	備考
7	<p>・職業講話（2時間） 職業体験学習の目的と学習内容の確認をする。協力事業所の仕事内容や講師の職業観や地域貢献について学ぶ。</p> <p>・職業講話の振り返りと希望業種アンケート調査(1時間)</p>	3	<p>知② 振り返りシート</p> <p>主② 観察</p>
9 10	<p>・グループごとに活動内容について確認し、課題とその解決方法について協議する。（2時間）</p> <p>・課題解決学習（13時間） ＜協力事業所＞ ○飲食業：リカルネ、若竹丸 ○建築業：スマイフルホーム ○農業：八江農芸</p>	15	<p>知① 思① 主① 観察 振り返りシート</p>
11	<p>・発表練習（2時間）</p> <p>・グループ内発表会と発表内容の修正（3時間）</p> <p>・グループ交換発表会（1時間）・・・本時</p> <p>・まとめ（1時間）</p>	7	<p>思② 主① 観察 振り返りシート 自己評価カード</p>

6 本時の学習

(1) 本時の学習題材 職業体験学習の成果と学びを発表しよう

(2) 本時の学習目標

課題解決のための過程とその成果を工夫して互いにプレゼンテーションしあうことで、他業種の仕事内容に興味や関心をもち、今後の自身の生き方に必要な学びを取り入れることができる。

(3) 本時の評価

○学習の成果と学びについて、わかりやすく工夫したプレゼンテーションができたか。

【主体的に学習に取り組む態度】

○互いのグループの発表の内容について、積極的に学ぶ態度で参加することができたか。

【思考・判断・表現】

(4) 本時の指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
<p>1 本時のねらいと学習の流れを確認する。 (3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・各グループと講師の紹介をする。
<p>めあて 職業体験学習の成果と学びを、工夫してプレゼンテーションしよう</p>	
<p>2 4事業所より1グループずつが集まり、学習の内容と成果についてプレゼンテーションする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><体験協力事業所・講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○リカルネ (飲食業) ○若竹丸 (飲食業) ○八江農芸 (農業) ○スマイルホーム (建築) </div> <p>講師と担当教師の組を4教室に配置し、発表の指導にあたる。</p> <p>3 本時のまとめ (10分)</p> <p>講師より講評をいただき、本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの評価方法と視点を確認する。 ・落ち着いてゆっくりと大きな声で発表することを確認する。 ・聞きながらメモをとらせる。 ・質疑応答では積極的に意見交換をすることで、学びを深めさせる。 ・評価カードに記録させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○A に対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説得させる表現を意識させる。 ・自身が経験した職種での学びと、違う職種の発表内容を重ねて考えることでの気づきを発表させる。 <p>○C に対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価した内容を発表させることで、参加意欲を高める。その際、教師とのやり取りで、発表のフォローをする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに本時のまとめを書かせる。 ・次回の予告をする。
<p>まとめ 他業種グループの成果を聞くことで、気づきの視野を広げることができた。</p>	

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和4年11月25日(金) 公開授業1

場 所 体育館

指導学級 2年1組、2組、3組 講師別グループ

指 導 者 松坂、黒川、麻生、吉野、土橋、森 各教諭

1 単元名 キャリア学習 ～自分の生き方を考えよう～

2 単元について

(1) 単元観

2年生のテーマは、「進化」である。「進化」には「将来にベクトルを伸ばす」という意味合いを込めており、本単元は自己を見つめ、自分自身の生き方を考える学びの場とすることをねらいとする。単元の構成としては、ライフプランの作成を通して、ゲストティーチャーの支援を受けながら、なりたい自分を模索しつつ、今の生活や学習などについての解決方法を見つけ実践活動を柱としている。学校や家庭での生活を見直し、中学校卒業後の進路選択や人生設計についてしっかり考える活動をきっかけにして、「豊かな生き方」「なりたい自分」について考えを深める。これにより生徒一人一人が自身の人生をより良く歩むための資質や能力が身につくものと考えられる。

(2) 生徒観

本学年は、目標に対して真摯に取り組む実直さがある。1年次の「職業体験」では、穏やかな雰囲気の中、各班とも協議を繰り返しながら、料理の商品開発や本校のシンボルマークを粘り強い取り組みで完成させた。また、各ゲストティーチャーによる経営者視点での話を聞く機会もあり、企画開発の面、並びに経営者の立場での見方や考え方についても学習することができた。一方で、学ぶ意欲や、目標に対して努力する必要性の理解が十分でない生徒も見られる。

(3) 指導観

本単元では、「豊かな生き方」の学習を通して、生きる価値について理解を深めたあと、「なりたい自分」についての学習を行わせる。「豊かに生きる」ためには、「ふるさとを大切にすること」や「人とのつながり」、「家族への思い」などが必要であることに気付かせる。その気づきを課題として、実現への具体的な方法や手段を考え、そのために今の自分に必要な力に気づき、それを身に付けていく態度を育むことにつなげたい。学習の課程においては、2名のライフプランコンサルタントや、県内で活躍する多様な業種のゲストティーチャー7名を招き、指導効果を高めたい。

本時は、「豊かな生き方」を考える手立ての1つとして取り組んだライフプランの発表を行う。ライフプランコンサルタントはこれまでの取組を踏まえての視点、ゲストティーチャーは生徒たちへの思いを伝える立場で、本時の授業に参加していただき、次時からの「なりたい自分」を考える際の道しるべとさせ、「自分の生き方」について考える意欲を持たせたい。

3 単元の目標

- 「豊かに生きること」や「なりたい自分」を考えることを通して、自己を理解しようとしたり、将来の生き方や目標達成について考えようとしたりすることができる。
- 班活動や発表を通して、協働して課題を解決しようとする力を身に付け、考えや伝えたいことを表現することができる。

4 単元の評価規準

知 知識・技能	思 思考・判断・表現	主 主体的に学習に取り組む態度
①学校生活や自分自身を見つめ、将来の生き方を考えることができる。	①ライフプラン作成を通して課題を見つけ、自分の生活や生き方について見通しを立てることができる。	①他者の意見を参考にしながら、課題解決へ向けて粘り強く取り組んでいる。
②講師(ゲストティーチャー)の講話等を、ライフプランや職業選択に生かすことができる。	②自分の考えを相手に分かりやすいように表現をしている。	②活動を通して、協働して学び合おうとしている。

5 単元指導計画(全24時間)

月	学習内容	時数	備考
9	・マンダラシートを活用して、自分の生き方について考える。(5時間)	5	知 ①ワークシート 思 ①発表 主 ②観察
9 10 11	・ゲストティーチャーのクロストークなどを通して、「豊かな生き方」を考えるヒントを探す。(4時間) ・キーワードをもとに豊かな生き方について考え、マンダラシート作成などを通して目標具現化のための考えを深める。(5時間) ・発表へ向けての準備と練習。(4時間) ・発表(1時間)・・・・・・・・・・・・・・・・本時	14	知 ①②ワークシート 思 ①②発表 主 ①②観察
12 1	・「豊かな生き方」をもとに、「なりたい自分」について考えを深める。(5時間)	5	知 ①ワークシート 思 ②ワークシート、発表 主 ①②観察

6 本時の学習

(1) 本時の学習題材 「豊かな生き方」について考えを深めよう！

(2) 本時の学習目標

「豊かな生き方」について、発表とディスカッションを通して、考えを深め、「なりたい自分」について考えようとする意欲を持つ。

(3) 本時の評価

相互発表やクロストークを通して、異なる意見や他者の考えの価値を受け入れ、なりたい自分について考える参考にしようとしている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(4) 本時の指導過程

学習活動	教師の指導・留意点
<p>1 本時のねらいと学習の流れを確認する。 (3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・発表は伝わりやすい話し方をし、観客は質問等を考えながら聞くことを確認する。
<p>めあて 「豊かな生き方」について考えを深めよう！</p>	
<p>2 生徒代表(各班)が、ライフプランを発表する。発表終了後、ディスカッションを行う。(20分)</p> <p>◎講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命保険会社(ライフプランコンサルタント) ・カリオモンズコーヒー(ロースター、代表) ・社会福祉法人ながよ光彩会(理事) ・山崎マーク(広報部、元新聞記者) ・長崎ヴェルカ(スクール事業責任者) ・株式会社 笑心一(取締役社長) ・nocchi farm(代表) ・CHOHAI(俳優) から数名の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表(3分)、ディスカッション(2分)を行う。 ・司会進行は生徒が行い、時間調整に関しては教員で行う。 ・ディスカッションが時間内に終わりそうにない場合は、必要に応じて延長する。 <p>○Aに対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なりたい自分について考えるヒントとして、気づいたことを、積極的にディスカッションで発表するように支援する。 <p>○Cに対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表で感じたこと・気になったこと(声の大きさや話す速さほか)などを、メモを取りながら聞くようにアドバイスする。
<p>3 ゲストティーチャーと生徒代表がクロストークを行う。(17分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとのクロストークで上手く話を展開できない場合は、教師の方から話題の提供や指示を出す。
<p>4 講師による講評を聞く。(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9月からの活動を通して成長がみられた部分や今後生徒自身が「なりたい自分」について考える際のヒントになる視点で講評をいただく。
<p>5 本時のまとめを行う。(3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員がまとめを行い、生徒は評価用紙に評価を行う。
<p>まとめ 他者の考えを聞いて、自分らしく生きていくための考えが深まった。</p>	

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和4年11月25日（金）公開授業1・2
場 所 B棟各割当て教室
指導学級 3年1・2・3組 各課
指 導 者 峰、松山、後田、太田、清水、早田 各教諭

1 単元名 キャリア学習 ～「住みたくなるまちづくり」を考え、地域に提言しよう～

2 単元について

(1) 単元観

3年生のテーマは「深化」である。「深化」には「学びを深く広げる」意味合いを込めており、本単元では1・2年生での学習を土台にして郷土愛を育み、地域貢献を自分の生き方に重ねて考えて発信させることをねらいとする。地域の方々や関係する人々の地元多良見町への思いに触れ、地域の良さや課題に気づき、課題の解決方法を考えるとともに、自分たちが地域とどのように関わっていくのか、企画・提言することで主体的に課題解決に取り組む生徒を育成する。

(2) 生徒観

キャリア学習の事前アンケートによると、下のような結果であった。

質問事項（一部抜粋）	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
自分たちが住む地域のよさを紹介できる。	27.4%	44.2%	21.1%	7.3%
将来大人になったとき、ふるさとのために役に立つことをしたいと思う。	24.2%	48.4%	21.1%	6.3%

どちらの質問にも約70%の生徒が肯定的に答えており、自分の地域のことを比較的好きである様子がうかがえる。

(3) 指導観

指導にあたっては、地域の魅力や課題に気づき、地域の方々の思いに触れ、魅力を発信するために自分に何ができるかを考え、行動できる生徒を育成したい。地域の良さとして「自然が多い」「人が優しい」などを挙げる生徒が多いが、漠然としていて具体性に欠ける。そのため自ら行動を起こしてまちづくりに必要な様々な情報を集め、課題意識をもつことができるような学習が必要である。

具体的には、chromebookを活用することでICTの活用能力を高めつつ、発表活動を通して自分の意見を社会に生かす社会参画の意識や、伝えたいことをよりの確に伝えるコミュニケーション能力を高めることを図りたい。なお、取材の際にはアポイントメントの取り方や電話での対応の仕方など、社会人としてのマナーの習得においてもよい学習となる。

3 単元の目標

○自分たちが住む地域を将来にわたって住みたくなるまちにするために、次の3つの力を活用できる。

- ①地域の課題や魅力に気づく力
- ②地域のためにできることを考えて行動する力
- ③地域の方々に発信・提言する力

4 単元の評価規準

知 知識・技能	思 思考・判断・表現	主 主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域のまちづくりのためのさまざまな取組とそれに携わる人々の思いがあることを知る。</p> <p>②地域の良さや人々の思いに気付くために、目的に応じた情報収集やインタビューをしている。</p>	<p>①地域のまちづくりについて、資源を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや課題を明らかにしている。</p> <p>②課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けしたりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>③取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図・写真等を使って効果的に表現している。</p>	<p>①地域のまちづくりについて調べる体験活動を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>②地域の活性化のために自分たちにできることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。</p>

5 単元指導計画（全37時間）

月	学習内容	時数	備考
6	<p><課題設定></p> <p>・「住みたくなるまちとは」をテーマにマンダラワークを行う。（3時間）</p> <p>・「移住したいまちとは？」をテーマにしたテレビ番組の一部を視聴し、地方にも移住したいまちがあることを知る。</p>	9	主① 観察
7	（1時間）		
8	<p>・多良見町喜々津中支所の6つの課に分かれ、地域の現状や課題を確認し、解決するための取組を考える。（5時間）</p>		思① 観察
9	<p><情報の収集>（夏休み中にも情報収集や調査を行う）</p> <p>・課ごとの調査・企画内容に応じて、市役所や地域の方などのまちづくりに携わる人々にインタビューをし、必要な写真を撮るなど情報を収集する。（7時間）</p>	7	<p>知① レポート、成果物</p> <p>知② 観察</p> <p>主② 観察</p>
10	<p><整理・分析></p> <p>・調べたこと、わかったことをまとめる。（10時間）</p> <p>・さらに必要な情報を集める。</p>	21	思② 成果物
11	<p>・課ごとの提言をお互いに発信し合う。（7時間）</p> <p>・「住みたくなるまちづくり」を提言する。（2時間）・本時</p> <p>・協力してくださった人々へ感謝を伝える。（2時間）</p>		思③ 成果物

6 本時の学習

(1) 本時の学習題材 「住みたくなるまちづくり」を提言しよう

(2) 本時の学習目標

「住みたくなるまちづくり」を提言する活動で、地域の魅力や課題を発信することを通して、自分の考えを効果的に表現することができる。

(3) 本時の評価

- 「住みたくなるまちづくり」について考え、調査した結果や課題を解決するために企画した内容を、発表の仕方を工夫して効果的に表現している。【思考・判断・表現】

(4) 本時の指導過程

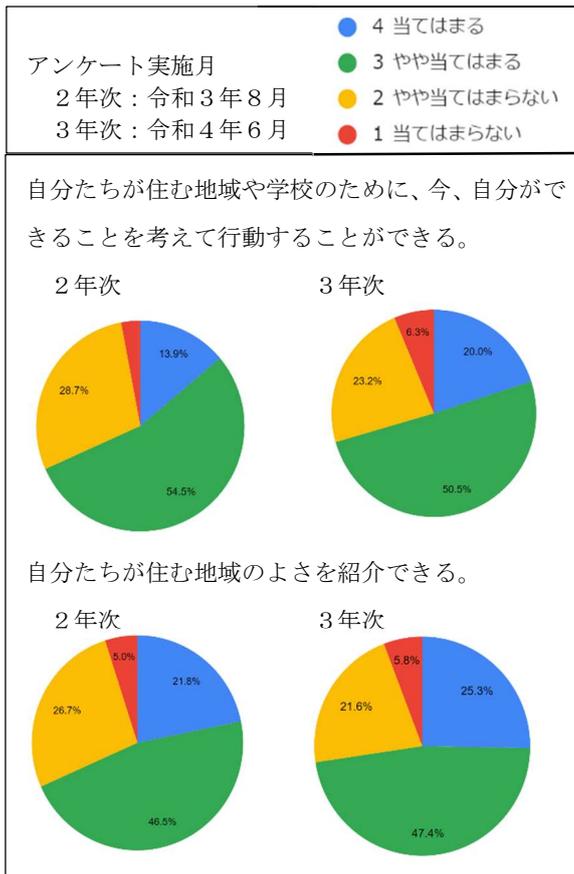
学習活動 (全100分)	教師の指導・留意点
<p>1 前時を振り返り、本時の流れを確認する。(5分)</p> <div data-bbox="229 624 1370 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて : 「住みたくなるまちづくり」を、より効果的に提言しよう。</p> </div> <p>2 「住みたくなるまちづくり」についての提言(プレゼンテーション)を行う。また、他の課の発表から、効果的な提言をするための工夫を学ぶ。発表ごとに評価カードを記入する。(5グループ×5分)(50分)</p> <div data-bbox="245 974 732 1234" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>多良見喜々津中支所 (喜々津中オリジナルの支所) 観光・広報課 まちづくり課 産業課 暮らし・防災課 教育・文化課 健康・福祉課</p> </div> <p>3 それぞれの課で集まり、2回の発表を通して改善した点を各班で確認する。また、効果的な提言のためにどのような工夫ができたか全体で共有する。(20分)</p> <p>4 諫早 YEG の方から講評をいただき、これまでの学習を振り返り、カードに記入する。(25分)</p> <div data-bbox="293 1624 711 1776" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><外部講師> 諫早商工会議所青年部(諫早 YEG) YEG 教育委員会</p> </div> <div data-bbox="229 1823 1383 1942" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 利用状況のグラフやお店の人へのインタビューを入れるなど、地域の人の声をたくさん取り入れる工夫がされていて、わかりやすかった。</p> </div>	<p>・前時に振り返った、1回目の発表における改善点を意識して今回の発表に臨むことを、全体で確認する。</p> <div data-bbox="229 624 1370 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて : 「住みたくなるまちづくり」を、より効果的に提言しよう。</p> </div> <p>・発表会全体の進行もできるだけ生徒主体でできるように支援する。</p> <p>・他の課の発表を評価する際、伝わりやすくするための工夫が感じられた点を具体的に示すよう促す。</p> <p>・机間指導で、各班の取組状況に応じて個別に評価・助言を行う。</p> <p>・前回の発表から改善された点を班や全体で共有することで、これまでの取組の成果を実感させる。</p> <div data-bbox="815 1115 1386 1520" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○A に対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課の取り組んだ内容と比べて考えることで違いに気づき、発表させる。 <p>○C に対する手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の発表後から今回の発表に向けて頑張って取り組んだ内容を挙げさせ、成果を実感させる。 </div>

3 成果と課題

1 成果

「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」として、令和3・4年度の2年間、研究を進めてきた。本校のキャリア学習は、令和2年度の第1学年、つまり現3年生が地域の方との御縁をいただき、職業体験を実施したことに端を発している。現3年生が1年次、2年次、そして本年度までの3年間の実践が本校キャリア学習の土台である。まだまだ途中過程で、今後も修正を重ねていくことにはなるが、キャリア学習の喜々津中スタイルをつくること（プログラム化）ができつつある。成果としては主として次の点が挙げられる。

- 職業体験学習を通して、地域の魅力、そこで働く人たちの魅力を知り、生徒自身の未来を思い描く起点となっている。
- 地元の多種多様な人たちとの交流を通して、自分の生き方を見つめ、将来にベクトルを伸ばすきっかけとなっている。
- 「住みたくなるまちづくり」を提言する取組を通して、自分たちが地域とどのように関わっていくのかを考える場となっている。（右上のグラフ参照）
- 地域・ふるさとの先輩方と繋がり、ふるさとで働く人たちの思いや、ふるさとの良さを知る。そして、課題解決へのチャレンジを通して、情報収集・分析、リーダーシップ、コミュニケーション力、起業家的視点などを体験から学び、生徒たちが輝きだしたことを感じる取組となった。



<生徒感想より>

- 私はこのキャリア学習を通して考えたことがあります。それは私達が住む諫早には、思った以上にいいところがあるということです。また、仕事をするときは色々なことを考えていると思いました。（1年）
- だれもがこれまで苦勞してここに今の自分があるんだなと思いました。でもその経験が今の楽しさと人との関わりに繋がっているんだなと思って、将来が楽しみになりました。（2年生）
- 自然が豊かで、交通の便が良いといった喜々津がもっている魅力を伝えることが大切だと思った。（3年）

2 今後の課題

- 教科との横断的な運用を視野に入れたカリキュラムの作成。
- 生徒自身が自立した学習姿勢の後押しのための場づくりの構築と設定。
- 各学年のアイデアや成果と課題を繋げ、今後も魅力的な学習を維持・継続すること。
- 生徒に身に付けさせたい力を職員が明確に共有し、講師と目指すものが同じベクトルになる工夫。これらを課題に据え、どの学年に配置されようとも、または新しい職員が赴任しても、活動がスタートできる体制づくりを構築していきたい。地域の方との連携が途絶えないようし、生徒にとって明確なキャリア学習の構築を今後も継続して進めたい。

研究同人

令和3年度

校長	平間 恵一
教頭	和泉 栄二
教諭	原 和典
教諭	森 哲也
教諭	吉野 智子
教諭	早田 史枝
教諭	田中 淑子
教諭	黒川 億子
教諭	太田 敦夫
教諭	土橋 秀子
教諭	片岡 直茂
教諭	松山 弘貴
教諭	松坂 武志
教諭	菊地 芳彦
教諭	八木 拓男
教諭	清水 亜希
教諭	福井 はる香
教諭	白丸 由比
教諭	後田 悠希
教諭	田尻 志希
教諭	峰 真知子
教諭	近江 義則
教諭	一山 七重
講師	大石 千咲
養護教諭	桑原 加奈子
事務主査	立川 英樹
事務職員	小原 佳子
ALT	コロン トレス ルイス ジェラルド

令和4年度

校長	中谷 俊光
教頭	川添 嘉之
教諭	原 和典
教諭	森 哲也
教諭	吉野 智子
教諭	早田 史枝
教諭	黒川 億子
教諭	太田 敦夫
教諭	土橋 秀子
教諭	片岡 直茂
教諭	松山 弘貴
教諭	松坂 武志
教諭	山下 裕里
教諭	八木 拓男
教諭	清水 亜希
教諭	福井 はる香
教諭	白丸 由比
教諭	後田 悠希
教諭	田尻 志希
教諭	峰 真知子
教諭	一山 七重
講師	麻生 大和
養護教諭	桑原 加奈子
事務主査	立川 英樹
事務職員	小原 佳子
ALT	コロン トレス ルイス ジェラルド